



説教要旨 「逃れようのない愛」

ローマの信徒への手紙 8章 31～39節

パウロは『神はわたしたちの味方である』そう力強く宣言をしています。しかし、いくら力強くそう宣言しても、目の前にある厳しい現実が無くなるわけではありません。大切なことは、『神がわたしたちの味方である』ということの根拠です。それはキリストの十字架です。

「その御子をさえ惜しまずに死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」(32節)

あのキリストの十字架に示された神の愛こそが、神が味方であるという根拠です。そしてそのキリストはいまや、裁き主である神の右に坐して、わたしたちのことを執り成してくださっている。これほど心強いことはないではないか、そうパウロは語りかけます。そして、パウロはさらに続けます。

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますか。艱難か、苦しみか、迫害か、飢えか、裸か、危険か、剣か」(35節)

実際パウロは、ここで言う艱難、苦しみ、迫害、飢え、裸、危険、剣、そのすべての苦難を経験しています。教会の内側からも、外側からも、彼は攻撃されました。とてつもない困難があり、挫折を味わいました。それでもなお、自分たちはキリストの愛から引き離されない、と彼は言うのです。

今、わたしたちは、感染症のために散り散りにされています。もちろん、遠く離れていても、イエス様によってつなげられています。しかし、そうは言っても不安はぬぐいきれません。もうこのまま教会から離れてしまい、神様から離れて行ってしまおう、そんな方がいるのではないかなんて考えだすと、悪い方へ悪い方へと想像力が掻き立てられて、爆発してしまいそうになります。しかし、どのようなことが起ろうとも、わたしたちの主イエス・キリストによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

『神はわたしたちの味方である』

このみ言葉に励まされ、新しい一週間、それぞれの生活の場へと歩みだしてまいりましょう。